

成果の出る総合型選抜のコツ①

入学者の成長を「面」と「線」で追い、入試の特性を把握

姿勢・態度に優れ、入学後に伸びる総合型選抜の入学者

思考力や姿勢・態度を測るアセスメント「GPS-Academic」の21万人以上の受検者データから、総合型入学者の特徴を分析しました。思考力を入試区分別に見ると、総合型は一般選抜より低いスコアです。しかし、経年で見ると思考力上位層の割合は年々伸びて、一般選抜との差を縮めています。思考力の高い生徒が総合型を選ぶようになった可能性があります。また、入学後の思考力のスコアは1年次から3年次にかけて全入試区分で増加していますが、増加率が最も高いのが総合型【図表7】。姿勢・態度については、レジリエンス*2が一般入試とほぼ同等、リーダーシップとコラボレーション*3は一般入試より上位層の割合が高いという結果でした。これらの結果から、総合型入学者の「学びに対する姿勢や態度が優れている」「思考力の成長ポテンシャルが高い」という特徴が見えてきます。入学時の教科学力のみを「いい学生」「いい入試」の判断基準にするのではなく、教科学力以外の多様な能力＝「面」や、入学後の変化＝「線」にも注目したほうが、自学の入試の検証や改善につなげることができるのではないかと考えます。

期待に応える教育があってこそ、大学満足度が高まる

気になるデータもあります。入学後の自学へのイメージを聞くと、

(株)ベネッセキャリア
まなぶとはたらくをつなぐ研究所
所長

小田桐 一弘

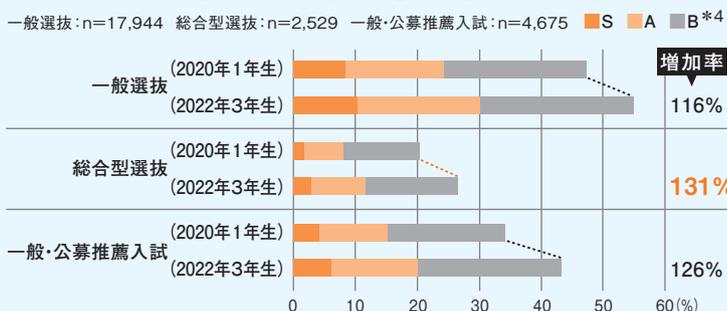
おだぎりかずひろ●2007年(株)ベネッセコーポレーション入社。高校教育・高大接続領域の支援に携わった後、2018年より(株)ベネッセキャリアで大学の学修成果の可視化・教学マネジメント推進の支援を担当。



総合型は、「よくなった」も多いものの、「悪くなった」の回答比率が全入試区分で最も高いのです。また、成長を「強く実感する」割合も、一般よりは高いものの学校推薦型よりは低い。ここから浮かび上がるのは、期待して入学し、入学後にがっかりしている総合型入学者の姿です。彼らは高校時代に探究活動や大学の学び体験などを通じて、入学後の理想を鮮明に言語化している分、期待とのギャップも強く感じやすいのでしょう。したがって、総合型選抜をよりよいものにするには、入試の種類や内容に手を加える入試改善のほかに、入学後の学びを期待に沿うものに変える教育改革も必要だと言えそうです。どのような教育を用意すべきか。学生生活で成長を「強く実感」した学生の特徴を入試区分別に分析したのが【図表8】です。総合型入学者の成長実感を高める要素は、カリキュラムの充実と、卒業後につながる学びと動機付けの提供のようです。

一方、一般選抜入学者の成長実感を高める要素は、それとは別であることも見逃せません。つまり、入試区分によって成長を促す「スイッチ」が異なるということ。もちろん現実として、それぞれに別々の対策を講じるほどのリソースがない大学も多いと思います。しかし、こうした入試区分別の分析は、どんな学生に向けて何を提供し、どう育てるのか、改革の優先順位付けに役立つはずです。

【図表7】入試区分別 入学後の思考力の推移(抜粋)



*(株)ベネッセキャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所「GPS全国データ3年比較『コロナ禍の影響評価』レポート」(2024年)

【図表8】入試区分別 高い成長実感を
感じている学生の特徴

総合型選抜入学者	一般選抜、 共通テスト利用入試入学者
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム(入学から卒業までの科目配置や履修の体系)に満足している ・自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている ・科目間の関連やカリキュラムの全体像を理解できている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自学で、自分の将来に必要な学びを得られていると感じる ・授業が、論理的・批判的思考力の伸長に役立っていると感じる ・ちょっとしたことで相談できる教員がいると感じる

*2 「感情の制御」「立ち直りの速さ」「状況に応じ冷静に対応する」といった姿勢・態度 *3「相手の立場に立とうとする」「他者と関わろうとする積極性」といった姿勢・態度
*4 思考力の受検結果に対する評価(S・A・B・C・D)のうち、上位の3段階